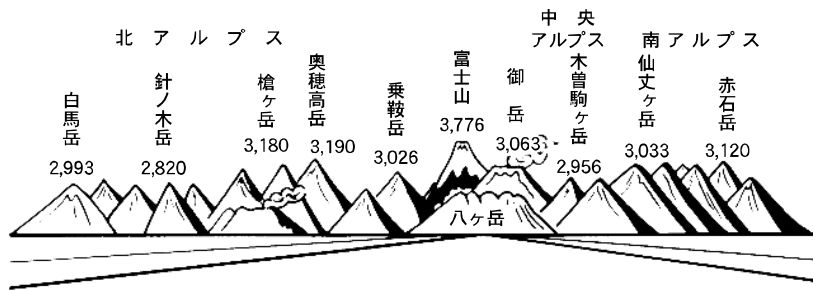


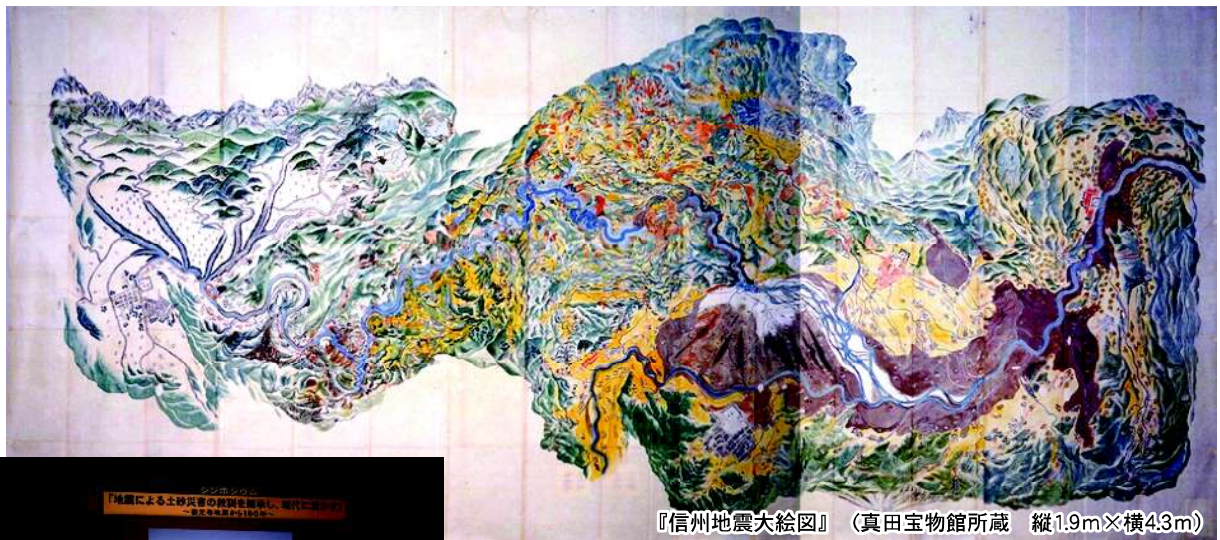
第 41 号

平成19年11月



長野県砂防課のマスコット “サー坊”

砂防ニュースロー長野



『信州地震大絵図』 (真田宝物館所蔵 縦1.9m×横4.3m)



『地震による土砂災害の教訓を継承し、現代に活かす』

～ 善光寺地震から160年～

(平成19年9月6日・7日)

目 次

第69回長野県治水砂防協会通常総会開催	2
新役員あいさつ	3
平成19年度 (第71回)	
(社)全国治水砂防協会通常総会開催	5
防災シンポジウム	
「NPO法人 梓川流域を守る会設立1周年」	5
土砂災害講習会	
～平成18年7月豪雨災害から学ぶ～	6
平成19年度発生 (5～9月)	
土砂災害への対応状況	7

シンポジウム	
『地震による土砂災害の教訓を継承し、現代に活かす』	8
平成18年7月豪雨の復旧状況	10
牛伏川歴史的砂防施設調査会	12
直轄防災事業について	
(中部地方整備局天竜川上流河川事務所)	13
平成19年度	
土砂災害に対する全国統一防災訓練を実施	14
土砂災害警戒情報 発表状況	15
《砂防ボランティアだより》	16

砂防事業キャッチフレーズ

今、日本の屋根長野から新・砂防の発進を

第69回長野県治水砂防協会通常総会開催

平成19年8月10日長野市において、第69回長野県治水砂防協会通常総会が多数のご来賓の方々をはじめ、県下100余名の市町村長並びに関係者出席のもと開催しました。

総会では、中村靖会長職務代理者の挨拶のあと来賓として国土交通省砂防部中野砂防計画課長、(社)全国治水砂防協会大久保理事長、原長野県土木部長からご祝辞をいただきました。

議事では、平成18年度事業報告・収支決算報告・平成19年度事業計画・収支予算(案)について審議され、いずれも原案どおり承認されました。

続いて任期満了に伴う役員改選が行われ、中村会長以下新役員が選出されました。また、砂防事業の推進に尽力され、功績のありました、寺島前会長をはじめ7名・一団体の功労者表彰を行いました。さらに本県の砂防事業の推進を図るため決議文(案)が提案され、満場一致で決議されました。



議事終了後、昨年度当協会の賛助会員となった「NPO法人梓川流域を守る会」藤澤理事長から会の活動状況などについてお話

いただきました。

また、国土交通省砂防部中野砂防計画課長から「最近の砂防行政について」、(社)全国治水砂防協会大久保理事長から「砂防協会の活動」についてご講演いただきました。



このように総会が滞りなく終了することができましたことに対し、会員の皆様をはじめ関係各位に感謝を申し上げます。



長野県治水砂防協会役員名簿

平成19年8月10日

役名	氏名	職名
会長	中村 靖	土尻川支部長 (信州新町長)
副会長	佐々木定男	南佐久支部長 (佐久穂町長)
"	山崎袈裟盛	犀川支部長 (池田町長)
"	中原 正純	天竜川直轄砂防事業促進期成同盟会長 (駒ヶ根市長)
"	牛越 徹	信濃川・姫川砂防工事促進期成同盟会長 (人町市長)
常任理事	栗屋 徳也	木曾支部長 (木祖村長)
"	青木 一	中高支部長 (中野市長)
理事	茂木 祐司	北佐久支部長 (御代田町長)
"	母袋 創一	上小支部長 (上田市長)
"	唐木 一直	上伊那支部長 (南箕輪村長)
"	小木曾亮式	下伊那支部長 (根羽村長)
"	太田 典男	松塩筑支部長 (波田町長)
"	宮坂 博敏	更埴支部長 (千曲市長)
"	三木 正夫	須高支部長 (須坂市長)
"	遠山 秀吉	長野支部長 (飯綱町長)
"	石田 正人	飯水岳北支部長 (飯山市長)
"	太田 紘熙	姫川支部長 (白馬村長)
監事	関森 省吾	筑北村長
"	小林 三郎	小谷村長
"	鷲澤 正一	長野市長

(社)全国治水砂防協会通常総会開催

平成19年5月16日、シェーンパッハ・サポーター「利根」において、(社)全国治水砂防協会第71回通常総会が多数の国会議員列席のもと盛大に開催されました。本県からは、中村副会長をはじめ100余名が出席しました。

また同総会において、福島前白馬村長が(社)全国治水砂防協会会長表彰を受賞されました。福島氏は、災害に強い郷土づくりと砂防事業の必要性を訴え、数々の大型砂防事業を導入することに尽力し、ハード面だけでなく、ソフト事業にも積極的に取り組み、県下で最初に土砂災害防止法に基づく土石流警戒区域の指定を行うとともに、警戒避難体制の整備を進め、地域住民の生命を守るため献身的な功績が認められ、今回の受賞となりました。



市ヶ谷記念館

総会は、綿貫会長の挨拶、来賓の祝辞に引続き、議事に入り、平成18年度事業報告、同収支決算報告及び、平成19年度事業計画(案)、同収支予算(案)が原案通り全会一致で承認されました。続いて役員改選が行われ、新役員が選出されました。



講演会

総会終了後、防衛省(市ヶ谷記念館)へ研修視察に70余名参加されました。大講堂にて映像や係員による説明を熱心に聞いていました。その後、砂防会館において、国土交通省砂防部牧野保全課長より「砂防の目指すもの」についてご講演いただきました。

防災シンポジウムを開催しました



NPO法人梓川流域を守る会
理事長 藤澤 繁 雄

NPO法人梓川流域を守る会は、去る9月9日、松本市の奈川で防災シンポジウム「みんなで学んで自然災害に備えよう」を開催しました。

ご案内のように安曇と奈川は松本市の山間地にあり、毎年なにかしら自然災害に見舞われる所です。昨年の7月豪雨でも道路を中心に相当の被害を受けており、岡谷の災害も他人事ではないと感じていました。

そうした中、私どもNPO法人は地域住民に改めて災害の恐さを知っていただき、いざという時に備えてもらおうとシンポジウムを企画しました。シンポジウムでは防災の専門家の方々をお招きして、いろいろな角度から防災や地域づくりなどのお話をさせていただいたほか、過去にこの地区を襲った土砂災害の写真等を展示しました。

信州大学農学部教授の平松晋也氏からは、「平成18年7月豪雨災害から学ぶ」と題して昨年岡谷市で起きた土石流災害の発生メカニズムや、山際に住む者の心構えなどをお話いただきました。特に過去に災害が無かったからと言って安心してはいけないというお話は心に残りました。

また、フリーアナウンサーの青山佳世氏からは「安心あつての魅力的なまち、リゾート」と題して、魅力的な観光地は災害という危うい部分も併せ持つが、砂防等によって安全は保たれていることをPRしていくべきだというお話をいただきました。

また、松本市総合防災課長堀内俊男氏からは「松本市の防災対策」と題してお話いただきました。特に安曇・奈川には境峠断層があり注意が必要だと言うことが分かりました。

当日は日曜日で各地にイベントがあり、大勢おいでいただけないのではないかと心配しましたが、開けてみると会場いっぱいの参加者で私達を喜ばせました。

このイベントに対し、多くの行政機関や団体からご後援をいただきましたこと、また大勢の皆様方から暖かいご支援をいただきましたことに対し厚くお礼を申し上げ開催報告といたします。



信州大学 平松教授



新役員あいさつ

【学びは 安全への道しるべ】

会長 信州新町長 中村 靖



長野県は、県土の約8割が“急峻な山地”で占められているまさに「山国」であり、その険しい地形と脆弱な地質に加え、「山地」の特徴である山々から流れ出す急峻な河川と、近年急速に広がる荒廃地域が相俟って、これまで幾度と無く土砂災害が発生し、多くの尊い命と貴重な財産が奪われて来ています。

平成18年7月の豪雨災害では、岡谷市などにおいて大規模な土石流が発生し、県下で10名の尊い命が奪われた事は、県民の記憶に新しいところでは。

今年は、長野県北部に多大な被害を与えた、弘化4年（1847年）の「善光寺地震」が起きてから160年にあたります。

善光寺地震では、長野市安庭地区と信州新町水内地区にまたがるように岩倉山が崩壊し犀川を堰き止め、19日後に決壊、善光寺平に大きな被害をもたらしました。河道閉塞の上流部にあたる当町でも、沿川集落が水没し、大きな被害が発生したと語り継がれています。

また、善光寺地震の特徴の一つとして上げられているのが、土砂災害の多かった事であり、4,100箇所を超える崩壊や地すべり、土石流が発生したと記録されています。そして、もう一つの注目すべき点として、この地震に関わる多くの記録が残されており、今日、防災に向けての対策を考える上で大変貴重な資料となっています。

異常気象による大規模災害が世界各地で多発している今日、国では総合的な土砂災害防止対策として、県や市町村と連携を取り、適切な警戒・避難を支援する総合的な土砂災害対策が進められているほか、県においても土砂災害警戒区域等の指定が行われるなど『まず安全の確保』のためのソフト事業が、それぞれの立場で展開されています。当協会といたしましても、引き続きの推進を

強く望むものです。

また、災害時に地域の実情に熟知している消防団員や町村職員がその任にあたる事は極めて合理的ではありますが、近年は市町村合併により地域が拡大していますので、行政によるよりきめ細やかな配慮が望まれると共に、更なる住民自身の自覚と行動が不可欠と言えます。

避ける事の出来ない自然災害に対しては、住民と行政が共通認識を持ち『災害が発生する前に、自らの安全を確保する』事が大変重要となってきます。

“過去の経験の中から得られた教訓を学び、迅速かつ正確な防災情報の提供を受け、適切に災害に対応し被害を最小限にとどめていく”治水砂防協会と共に土砂災害防止に取り組む者として、これに邁進するものと考えておりますので会員皆様のご協力をお願い致します。

「副会長就任あいさつ」

副会長 佐久穂町長 佐々木 定 男



8月の第69回通常総会において、副会長を仰せつかりました南佐久支部長で佐久穂町長の佐々木定男でございます。中村会長のもと当協会発展のため尽力してまいる所存でございますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、本県は風光明媚な地ではありますがその反面、急峻な地形で古くから水害や土砂災害に見舞われてきました。当町の中心を貫流する千曲川沿いには多数の古いお地蔵様や供養等があります。

これは千曲川水系で2,800人も流死者を出した寛保2年（1742年）8月1日の「戌の満水」での犠牲者の霊を慰めるためと云われております。そして現在でも当地方では、犠牲となった祖先の供養のため8月1日にはお墓参りをしております。

時代を問わず災害のない安心・安全な生活は地域住民の願いであり、私どもの使命であります。

安心して暮らせる郷土づくりのため今後も努力を重ねる所存でございます。

公共事業費の削減等厳しい状況ではございますが、関係各位の更なるご支援をお願い申しあげ、ごあいさつといたします。

「役員就任にあたって」

副会長 池田町長 山崎 袈裟盛



第69回通常総会の席上、副会長を仰せつかりました犀川支部長で池田町長の山崎袈裟盛でございます。会長を補佐し、当協会の発展のため努力したいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

さて、本県の地形は、急峻の上、地質は脆弱なため災害を受けやすく、過去に数多くの水害や土砂災害に見舞われました。特に平成16年10月の台風23号は犀川支部全域にわたり多大な災害を引き起こし、住民に不安と日常生活に多くの不便を与えました。池田町においても、町としてはじめての避難勧告を出し、町内の公共施設へ一時避難をする一方、道路崩落等のため孤立する集落が発生する事態となる苦しい経験を致しました。

自然災害から県民の生命、財産を守るため当協会の活動を通じて国・県に協力しながら治水砂防事業の推進に努力する所存でございますので、関係各位のご支援とご協力をお願い申しあげ、ごあいさつと致します。

「役員就任にあたって」

副会長 駒ヶ根市長 中原 正純



去る8月10日開催の第69回通常総会におきまして、引き続き副会長をお引き受け致すことになりました。当協会の発展に微力ではありますが最善をつくす所存でありますので、皆様の更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。

お願い申し上げます。

さて、ご承知のとおり長野県の地形は急峻の上、地質的に脆弱なため自然災害を受けやすい環境下にあり、これまでも幾多の水害や土砂災害に繰り返し見舞われてまいりました。昨年7月発生 of 豪雨と土石流による災害は記憶に新しいところであり犠牲になられた方々のご冥福を改めてお祈り致します。

このような自然災害に対して安全・安心の地域づくりのためにも治水砂防事業の緊急かつ計画的な実施が極めて重要なことと考えております。今後とも土砂災害等から住民の生命・財産を守るために、当協会の強力な活動のもとに国・県当局のご高配を賜りつつ事業が一層推進されますよう努力致します。

「役員就任にあたって」

副会長 大町市長 牛越 徹



県歌「信濃の国」に歌われておりますように、本県は広大な県土に3千メートル級の山々と太平洋・日本海に流れ出る河川が存在し、美しく豊かな自然に恵まれています。

しかし、時としてこの天恵の地勢が牙をむくことがあります。県下では、昨年の7月豪雨災害のように毎年、融雪や梅雨・台風による豪雨が、各地で土砂災害を引き起こしています。県民の尊い生命と貴重な財産が失われ、道路や橋梁などの社会資本にも多大な被害が生じています。

国・県には、積極的に砂防事業に取り組んでいただき、土砂災害防止のために多くの対策を講じていただきました。これまでの関係ご当局のご高配に感謝を申し上げますとともに、今後も引き続き砂防事業のより一層の推進と地域住民が安心して安全に暮らせる地域づくりを願うものです。

微力ではありますが会長を補佐し、当協会の発展に努めてまいる所存でございますので、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

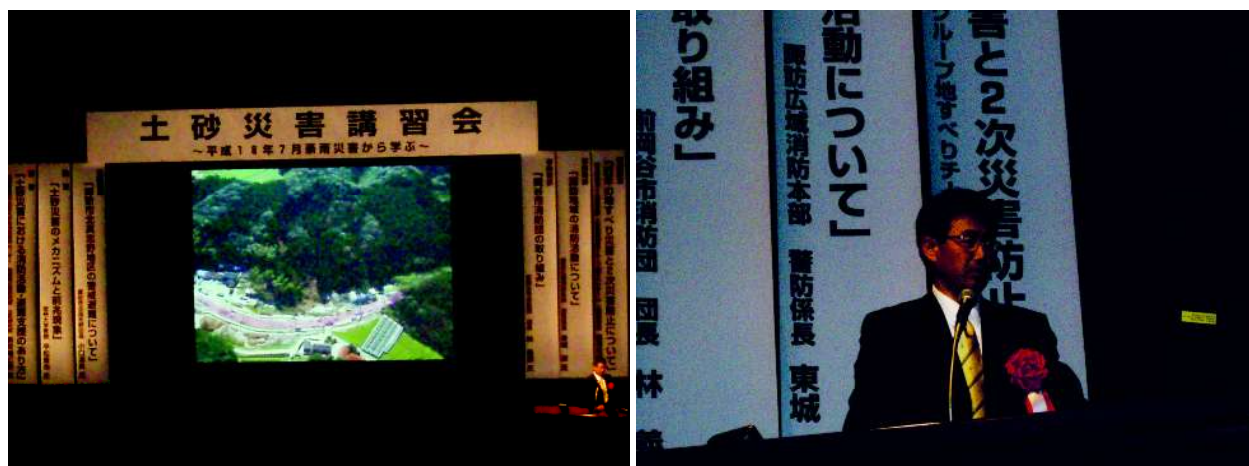
土砂災害講習会 ～平成18年7月豪雨災害から学ぶ～

平成19年6月10日(日)、長野市民会館大ホールにおいて、土砂災害講習会（長野県主催：(財)長野県消防協会、長野県消防長会共催）が開催されました。

「平成18年7月豪雨災害」の土砂災害発生箇所では、勾配がとくに急峻なわけでもなく、山々の荒廃もほとんど見られない状況でしたが、水防活動を実施していた消防団員1名を含む10名の方が犠牲となる甚大な災害となりました。また、これらの地域は過去何十年と土砂災害が起こるとは誰もが思っていなかったことが、死者を出すひとつの要因となっていました。長野県では、再びこのようなことが起こらないように、土砂災害から自らの命を守るとともに地域の方々を守る知識を身につけ、教訓を地域、世代を超えて語り継いでいただくために土砂災害講習会を開催しました。

土木研究所藤澤氏からは、地すべり災害に対する安全管理、応急対策について映像を使用した基調講演を、信州大学平松教授からは、土砂災害が発生したとしても災害に巻き込まれない賢く生きる方策について、消防大学校の新井場氏からは、「危険性を認識した上で行動することが活動を安全にする。安全の確保には経験の共有が欠かせない。」との講演がありました。また、実際に防災活動をされた方々による事例発表がありました。この講習会には、市町村、県の防災担当者に加え、消防団員、消防署職員など300名の方々が熱心に耳を傾けました。

- 基調講演 「近年の地すべり災害と2次災害防止について」
独立行政法人土木研究所 上席研究員 藤澤和範
- 事例発表 ～平成18年7月豪雨災害～
- | | |
|----------------------|----------------------|
| 「諏訪地域の消防活動について」 | 諏訪広域消防本部
警防係長 東城源 |
| 「岡谷市消防団の取り組み」 | 前岡谷市消防団 団長 林義郎 |
| 「諏訪市北真志野地区の警戒避難について」 | 諏訪市北真志野区長 小口満良 |
- 講習 「土砂災害のメカニズムと前兆現象」 信州大学教授 平松晋也
「土砂災害における消防活動・避難支援のあり方」 消防庁消防大学校消防研究センター
主任研究官 新井場公徳



土木研究所藤澤氏の基調講演

平成19年度発生（5月～9月）の土砂災害への対応状況

1 土砂災害の発生状況（9月30日現在）

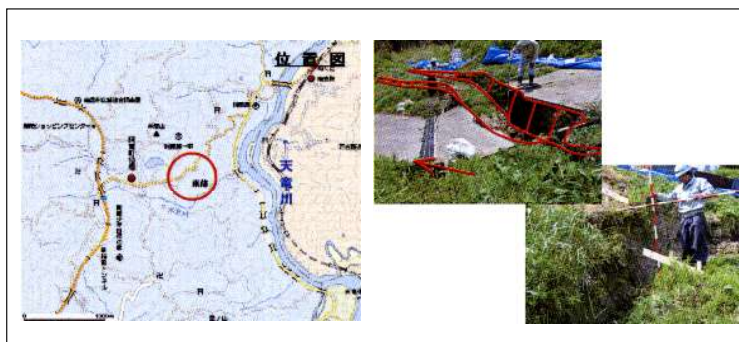
	土石流		地すべり		がけ崩れ		総計		主な被災市町村 及び対応事業
	上砂災害	公共土木 施設災害	上砂災害	公共土木 施設災害	上砂災害	公共土木 施設災害	計	公共土木 施設災害	
降雨（5月25日）				3			3	0	小谷村、阿南町 災害関連緊急地すべり対策事業他
台風4号（7月15日）		2	5	1	6		11	3	飯田市、阿南町、伊那市他 県単独事業他
中越沖地震（7月16日）			1		1		2	0	中野市、長野市 県単独事業
梅雨前線豪雨（7月30日）	1	1					1	1	飯田市 災害関連緊急砂防事業
（8月7日）	1						1	0	小川村 県単独事業
台風9号（9月7日）		9			3		3	9	佐久市、御代田町他 県単独事業他
合計	2	12	9	1	10	0	21	13	

2 主な被災状況

(1) 5月25日の降雨によるもの

**【対応事業：
災害関連緊急地すべり対策事業】**

阿南町開窪
（復旧概要）
横ボーリング工 水路工



(2) 7月16日の中越沖地震によるもの

**【対応事業：
県単急傾斜地崩壊対策事業】**

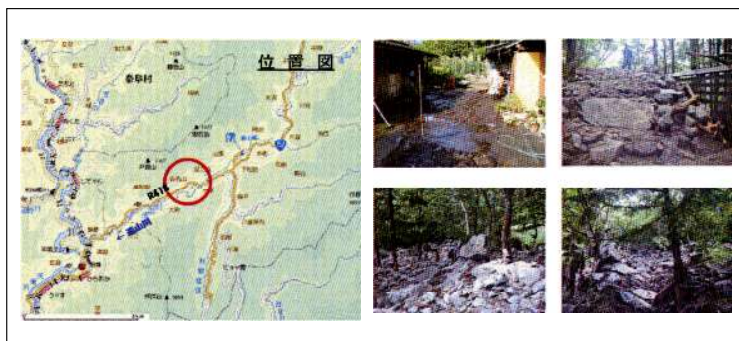
長野市入山清水
（復旧概要）
重力式擁壁工



(3) 7月30日の梅雨前線豪雨によるもの

**【対応事業：
災害関連緊急砂防事業】**

飯田市名古山（大堀沢左支川）
（復旧概要）
砂防えん堤工 1基



『地震による土砂災害の教訓を継承し、現代に活かす』

～ 善光寺地震から160年 ～

本年は能登半島地震や新潟県中越沖地震が発生し、数多くの家屋が倒壊したほか、がけ崩れや河道閉塞などの土砂災害が各所で発生しています。また、今年、長野県北部に多大の被害を与えた弘化4年(1847年)の善光寺地震が発生してから160年になります。

このような中、地震により発生する土砂災害に対して理解と関心を深めるとともに、地域の地震防災力の向上を期待し、シンポジウム『地震による土砂災害の教訓を継承し、現代に活かす』～善光寺地震から160年～が、平成19年9月6日・7日に長野県県民文化会館で開催されました。

午前中はシンポジウムの第一部として内閣府中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門委員会」による1847善光寺地震分科会の報告会が行われました。

午後のシンポジウム第二部の冒頭、主催者を代表し、シンポジウム実行委員長の原悟志長野県土木部長の挨拶があり、来賓の村井仁長野県知事と中野泰雄国土交通省砂防部砂防計画課長からご挨拶をいただきました。



村井知事挨拶



中野課長挨拶

善光寺地震の状況は数多くの絵図・文書(もんじょ)に残されています。その貴重な絵図をまとめたハイビジョン映像『地震の絵図は語る』が上映されました。また、現代において同様の規模で河道閉塞が発生・決壊した場合、どのような被害が生じるのか、千曲川河川事務所長松原誠氏の説明により、映像によるシミュレーションが示されました。見慣れた街並みが浸水していく様子に参加者は目を見張っていました。

その後、中条小学校6年生14名と湯谷小学校6年生30名による、善光寺地震に関わる学習発表会が行われました。学習はNPO法人長野県地すべり防止工事士の協力を得て行われました。中条小学校には、善光寺地震の際に描かれた被害状況の絵図と現在との比較や、学校でビオトープ池を作っている様子について発表していただきました。湯谷小学校には、現在も残る善光寺地震の傷跡を訪ねた結果についての報告と、学習中に発生した新潟県中越沖地震に対する募金活動について発表していただきました。

パネルディスカッションでは、コーディネーターをエッセイストの山田美也子さんをお願いし、パネリストにはNPO法人防災情報機構会長の伊藤和明氏、信州大学名誉教授の北澤秋司氏、新潟大学災害復興科学センター教授の丸井英明氏、地元信州新町長の中村 靖氏をお迎えし、またコメンテーターと

して中野砂防計画課長に参加していただき、計6名での討議が行われました。大規模地震と土砂災害に備える様々な貴重なご意見をパネリストからいただき、有意義な時間となりました。



中条小学校の発表



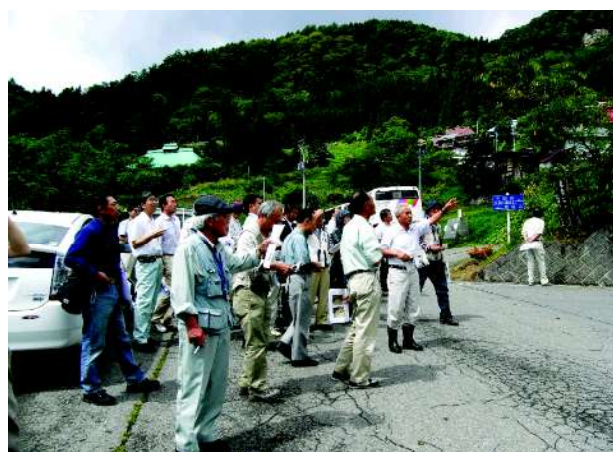
湯谷小学校の発表

別会場では『地震と土砂災害』をテーマに、善光寺地震の際に描かれた絵図の実物展示、最近の地震災害の紹介、国土交通省松本砂防事務所・千曲川河川事務所・長野県の防災への取り組みについてのパネル展示が行われました。また、野外では子どもを対象にした体験学習が行われました。地震体験装置、降雨体験装置、土石流3D体験シアター、土砂災害模型を通じて、子どもたちは楽しみながら防災について学んでいました。

翌7日の現地見学は約100名の参加により2コースに分かれて行われました。1日コースでは善光寺地震で崩壊した虫倉山周辺を巡り、当時の絵図と現在の風景を比較しながら善光寺地震の追体験を行いました。半日コースでは善光寺地震断層、河道閉塞の決壊により氾濫被災した川中島、地震復興に尽力した真田幸貫の遺物が展示される真田宝物館を巡りました。参加者は、現在も残る160年前の善光寺地震の跡を見ながら、当時の地震の大きさに思いを馳せていました。



体験学習



現地見学会

当日は台風9号が接近するあいにくの天候でしたが、一般住民及び防災関係者が全国から集まり、参加者は1,000名を超える盛大なシンポジウムとなりました。シンポジウム開催にあたり、ご指導をいただいた皆様、後援・協賛をいただいた関係団体、そしてご協力をいただいた関係者に改めて感謝を申し上げ、報告とします。

平成18年7月豪雨災害の復旧状況

土石流

【小田井沢川 岡谷市湊3丁目】

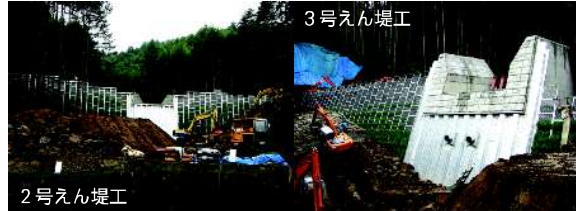
《被災状況》



《復旧状況》

計画の概要

砂防えん堤工 3基 (H=11, 11.5, 12m L=86.4, 99.6, 112.8m)
床固工 7基 溪流保全工 L=900m



【志平川 岡谷市川岸橋原】

《被災状況》



《復旧状況》

計画の概要

砂防えん堤工 2基 (H=7, 11m L=53, 96m)
堆積工 1基 溪流保全工 L=615m



【横河川左支川 岡谷市上の原】

《被災状況》



《復旧状況》

計画の概要

砂防えん堤工 1基 (H=6.5m L=88m)
床固工 2基 堆積工 1基 導流堤工 1基



【中の沢 箕輪町中村】

《被災状況》



《復旧状況》

計画の概要

砂防えん堤工 1基 (H=13.5m L=149m)
堆積工 1基 溪流保全工 L=300m



地すべり

【佐久市駒込】

《被災状況》



《復旧状況》
計画の概要

集水井工 10基 集水・横ポーリング工 L=13,700m
鋼管杭工 78本 押え盛土工 V=25,000m³



【長野市定谷】

《被災状況》



《復旧状況》
計画の概要

横ポーリング工 L=2,370m 排土工 V=5,580m³
押え盛土工 V=17,000m³ 谷止工 2基



がけ崩れ

【諏訪市湯の脇】

《被災状況》



《復旧状況》
計画の概要

吹付法砕工 A=535㎡ アンカー工 61本



【辰野町小野中村】

《被災状況》



《復旧状況》
計画の概要

吹付法砕工 A=870㎡ 横ポーリング工 L=120m
重力式擁壁工 L=68m 明暗渠・暗渠工 L=120m



牛伏川歴史的砂防施設の発掘調査について



平成19年10月26日(金)に、松本市内田の牛伏川上流日影沢及び泥沢合流部で、明治時代に造られた砂防施設の発掘調査が実施されました。

長野県土木部、長野県砂防ボランティア協会、牛伏・鉢伏友の会の主催により、地元の皆様も含め100名を超える方に参加をいただきました。

発掘調査に先立って、大久保駿(社)全国治水砂防協会理事長に基調講演をお願いし、牛伏川流域の砂防事業の経緯を説明



していただきました。その後参加者全員で発掘場所に移動して、法勾配が約29度から39度の斜面に施工された石積みの縦水路(約100m)を手作業で掘り出しました。

作業途中からはあいにくの雨となり、急勾配で足もとがすべて危険であるとのことで、途中で中断となりましたが、概ねの発掘が終了し、当時の先人たちが苦勞し工夫されて施工された、石積み水路が姿を見せてくれました。

また事務局の皆さんが用意してくれたおいしい豚汁が配られ、作業中の雨で冷えた体を温めてくれました。

発掘作業に参加された皆さん、たいへんお疲れ様でした。



伊那谷の直轄砂防事業について



中部地方整備局
天竜川上流河川事務所長

伊藤 仁志

このたび4月に、天竜川上流河川事務所に参りました。長野県治水砂防協会の皆様には大変お世話になりますが、よろしくお願い致します。

昨年6月に、前職の河川局防災課災害査定官在職中に、駒ヶ根市で開催された技術講習会に講師としてお招き頂き、災害査定の講演を行ったところ、約一ヶ月後に7月豪雨災害が発生しました。その後、関係者の方々から、その時の講演内容が役に立ったとお聞きしまして、参加してよかったと思っております。

さて、当事務所が管理します天竜川は、日本の屋根といわれる中央アルプス、南アルプスを流域に抱える等、とりわけ厳しい自然条件下にあり、これまでも、昭和36年、昭和58年の大災害など、数多くの災害に見舞われる等、災害に対しては非常に厳しい川です。このため、天竜川直轄砂防事業は、昭和9年の室戸台風などの被害において砂防事業の効果が全国的に認識され、昭和12年に小渋川で着手され、今年で70年を迎えます。現在、三峰川、遠山川、竜西流域等の4流域において直轄砂防事業を実施しています。また、流域には中央構造線が縦断しており、現在の地形形成の過程において破碎・変成の作用を受けているため、地質は脆弱であり、此田（飯田市）、入谷（大鹿村）の2箇所において、直轄地すべり対策事業を実施しています。

昨年7月豪雨では、小渋川流域においても、最大時間雨量27mm、総雨量239mmの豪雨を記録しました。この豪雨により小渋川支川の青木川において土石流が発生しましたが、青木川最上部にある既設の大西第2砂防堰堤（H元年完成）により、約29,000m³を捕捉し、青木川沿川の砂防施設も効果を発揮し、土石流は下流大鹿村の中心地である大河原地区まで到達せずに、未然に被害を防いでいます。また、今年8月22日に、与田切川の支川のオンボロ沢では土石流が発生するなど（写真-1）、今年だけでも、管内において4箇所の土砂災害が発生しております。幸いにも人的被害はありませんでしたが、もし施設がなかったら大災害になっていたことも考えられるものもありました。生活豊かな近代社会が実現しているように見えても、生活の基本である安全安心をお届けする砂防施設がまだ十分に整備されていないこと、さらに近年異常気象が頻発している状況下においては、天竜川がいつ「暴れ天竜」に変貌してもおかしくない状況と考えております。

このため、自然環境、生態、溪流利用に配慮しながら、

砂防施設の整備を一層推進するとともに、地域活性化に貢献する砂防事業を展開して参りたいと考えております。

また、昨年7月豪雨災害を教訓に、災害時には地域が連携して迅速に対応できるように備えることが必要です。このため、今年5月に伊那市・長野県等と合同防災訓練を行いました。「情報共有」の部分で難しさを感じ、この点を解消するため、防災GISの活用を検討しているところです。また、土砂災害に対する経験や情報が少ない市町村に大規模土砂災害時に人的支援や物的支援ができるよう、上伊那地域をモデルに対応マニュアル（案）策定に向け検討中です。（写真-2）策定後は、同マニュアルを活用した関係機関合同による防災訓練の実施、対象地域を広げていきたいと考えています。この他、当事務所では今年度から排水ポンプ車2台を増強し、排水ポンプ車3台を含む災害対策車両6台体制で、梅雨や台風等に備えております。内水氾濫等の災害時には要請に応じて出動支援します。

災害対策車派遣に係る実費は派遣者負担となりますが、災害時にはご活用下さい。

土砂災害による被害を防止するため、ハード、ソフト両面から、災害の予防に努めて参りますので、引き続き、皆様の一層のご支援とご協力をお願い致します。



(写真-1)

オンボロ沢土石流の発生（H19年8月22日）



上伊那地域大規模土砂災害対策委員会（写真-2）
（H19年3月22日開催）

平成19年土砂災害に対する全国統一防災訓練を実施しました

近年多発している土砂災害で多くの犠牲者がでていることから、平成19年5月27日を中心に「土砂災害に対する全国統一防災訓練」が実施されました。

長野県では、大町市など20市町村で「土砂災害に対する全国統一防災訓練」を実施しています。

1 目的

災害時の情報伝達、避難勧告、避難行動が必ずしもスムーズに行なわれていない事例も見受けられることから、土砂災害に対する防災訓練を実施し、避難勧告の発令、災害時の情報連絡体制及び避難体制の確立を図るとともに、課題・改善点をみつけ今後に生かしていく。

2 参加機関

- ① 対象地域の住民、災害時要援護者施設関係者（保育所、老人福祉施設、知的障害者援護者施設等）
- ② 市町村、消防署、警察署、消防団
- ③ 長野県、地方事務所、建設事務所、砂防事務所
- ④ 国土交通省、関東地方整備局、北陸地方整備局、中部地方整備局、長野地方気象台

3 防災訓練実施市町村、参加人数

実施市町村	実施日	参加人数（人）		
		行政	住民	合計
佐久穂町	6月20日	22	42	64
御代田町	8月25日	121	353	474
東御市	5月25日	10	1	11
岡谷市	6月3日	149	307	456
箕輪町	5月27日	7	211	218
南箕輪村	9月2日	53	2,630	2,683
泰阜村	5月27日	20	27	47
喬木村	5月27日	11	123	134
天龍村	5月25日	5		5
南木曾町	6月30日	96	222	318
塩尻市	5月28日	19	44	63
安曇野市	5月27日	7	23	30
大町市	5月27日	71	90	161
坂城町	5月27日	4		4
高山村	5月27日	44	89	133
中野市	5月27日	35	69	104
長野市	6月3日	47	243	290
木島平村	5月27日	42	186	228
小谷村	5月29日	17	2	19
中条村	5月27日	13	6	19
7市5町8村		793	4,668	5,461

※南箕輪村防災訓練は地震訓練も合わせて行っている。

4 実施結果（課題・改善点）

情報伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・防災行政無線が届かない箇所がある。 ・携帯電話が一部地域では電波が届かない。
避難	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害警戒情報は、市町村単位で出されるが、実際の避難をどこの地域に出すかが課題である。 ・避難ルートが1本しかないところは、災害時に孤立する可能性がある。 ・水防活動に従事している消防団は、避難周知等に従事できない可能性がある。 ・避難経路に危険箇所があることから、地区毎に誰がどのような避難行動をとるのか、事前に確認しておく必要がある。
訓練	



防災機材の説明状況（箕輪町）



住民の避難状況（大町市）



災害者援護者（車いす）の避難状況（高山村）

土砂災害警戒情報 発表状況

平成19年6月1日から運用を開始しました長野地方气象台との連携による土砂災害警戒情報の10月20日までの発表状況は、下記の通りです。（4回 延べ26市町村の発表）

台風 4 号

発表地域	発 表	解 除	土 砂 災 害 状 況
上村南信濃	7月15日 0:15	7月15日 11:15	7月15日3:00頃、飯田市山本箱川でがけ崩れ発生 (家屋一部破損、自主避難1世帯) 他、飯田市がけ崩れ3件、阿南町地すべり4件
飯 田	7月15日 0:15	7月15日 11:15	
天 龍 村	7月15日 2:20	7月15日 11:15	
大 鹿 村	7月15日 2:20	7月15日 11:15	
阿 南 町	7月15日 3:25	7月15日 11:15	
泰 阜 村	7月15日 3:25	7月15日 11:15	
根 羽 村	7月15日 5:20	7月15日 11:15	
高 森 町	7月15日 7:35	7月15日 11:15	
喬 木 村	7月15日 7:35	7月15日 11:15	
8市町村(9地区)	/	/	

豪 雨

発表地域	発 表	解 除	土 砂 災 害 状 況
上村南信濃	7月30日 19:45	7月31日 0:20	7月30日 南信濃南和田で土石流発生
天 龍 村	7月30日 20:50	7月31日 0:20	
2市村	/	/	

豪 雨

発表地域	発 表	解 除	土 砂 災 害 状 況
上 田 市	8月6日 16:40	8月6日 19:10	
坂 城 町	8月6日 16:40	8月6日 19:10	
須 坂 市	8月6日 17:10	8月6日 19:10	
千 曲 市	8月6日 17:10	8月6日 19:10	
長 野	8月6日 17:10	8月6日 19:10	
5市町	/	/	

台風 9 号

発表地域	発 表	解 除	土 砂 災 害 状 況
軽井沢町	9月6日 2:40	9月7日 16:00	9月7日7:00頃、佐久市香坂東地でがけ崩れ発生 (一世帯家屋2棟全壊、自主避難2世帯) 他、佐久市がけ崩れ1件、御代田町がけ崩れ1件 長谷 南アルプス林道土砂流出約20箇所
佐 久 市	9月6日 7:50	9月7日 16:00	
御代田町	9月6日 7:50	9月7日 10:35	
東 御 市	9月6日 20:25	9月7日 10:35	
小 諸 市	9月6日 20:25	9月7日 10:35	
長 谷	9月6日 20:25	9月7日 8:40	
佐久穂町	9月6日 22:40	9月7日 10:35	
小 海 町	9月6日 23:35	9月7日 10:35	
川 上 村	9月6日 23:35	9月7日 10:35	
南相木村	9月6日 23:35	9月7日 10:35	
北相木村	9月6日 23:35	9月7日 10:35	
11市町村	/	/	

●平成19年度長野県砂防ボランティア協会総会が開催される

平成19年5月22日(火)サンパルテ山王(長野市)において、平成19年度長野県砂防ボランティア協会総会が開催され、会員52名が出席しました。議事の中で平成18年度の事業報告、会計報告、平成19年度の事業計画、役員及び組織体制について承認されました。

引き続き行われた講習会には県土木職員も参加し、「善光寺地震での松代藩の対応」と題して松代文化施設等管理事務所学芸員の原田和彦氏に講演をしていただきました。

原田氏は内閣府中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門委員会」1847善光寺地震分科会の委員をされています。

善光寺地震の状況について、NHK大河ドラマ風林火山の時代考証の話をお話しながら、興味深いお話をいただきました。また、栗原参事兼砂防課長より新潟県中越沖地震での初期対応について、経験を踏まえた講演がありました。



(総会の様子)

●平成19年度土砂災害危険箇所点検パトロールについて

6月の土砂災害防止月間にあわせて毎年実施している土砂災害危険箇所パトロールに、本年度も11現地機関(佐久、諏訪、伊那、飯田、松本、安曇野、千曲、長野、犀川、姫川、土尻川)から砂防ボランティア協会の派遣要請があり、延べ44名の協会員が参加しました。パトロールは地元警察署、消防署、市町村、地方事務所、建設(砂防)事務所及び自治会代表者らと合同で行われ、土砂災害に対する認識を深めるとともに、地域防災力の向上に貢献しました。

また、平成19年7月16日に飯綱町で震度6強の揺れを観測した新潟県中越沖地震の際には、県からの要請を受け、砂防ボランティア協会員による危険箇所パトロールを行いました。パトロールは、震度5以上を観測した5市町(飯綱町、信濃町、飯山市、中野市、長野市戸隠地区)の土砂災害危険箇所(地すべり・急傾斜)について行われ、7月18日～19日に、協会員延べ18人が参加しました。



(土砂災害危険箇所パトロール)



(中越沖地震後パトロール)

緊急の調査でしたが、2日間で116箇所の点検を行い、幸いにも異常を認めることなく点検を完了しました。県からの派遣要請から人員の確保そして点検とスムーズに応援ができたことは、昨年7月に岡谷市を中心に発生した豪雨災害での経験が活かされたものと感じています。県では、砂防ボランティアと協働で点検を行ったものを含め、432箇所の土砂災害危険箇所について異常がなかったことを、地震発生から3日後には県民に伝えることができました。

当協会としましては、今後もこのような支援活動に積極的に協力し、被災地域に対する援助活動と土砂災害に対する知識の普及と啓発活動を行っていきたくと考えております。